



あかるく元気な子 だれにも親切な子 しつかり考える子 ことばを大切にする子

困難を乗り越えてこそ得られる喜び



1 月 28 日（土）に市の駅伝大会がありました。阿太小学校チームは惜しくも 7 位という結果でしたが、目標達成に向けて一人一人が一生懸命走り、必死にたすきをつなごうとする姿に胸が熱くなりました。

私たちは、毎日何らかの目標をもって生きています。その目標を達成するためには、いろいろな困難を乗り越えなければいけません。困難から逃げることも一つの選択肢としてあるかも知れませんが、そうすると目標を達成したときの喜びや満足感は得られません。反対に、その困難が大きければ大きいほど、それを乗り越えて達成したときの喜びは大きくなります。



『厳しい寒さに耐えながら、それをしっかり乗り越えてきた桜はきれいに咲く』という話があります。今の子どもたちには、この困難を乗り越える経験が大切なのではないのでしょうか。楽な方へ楽な方へと逃げるのは簡単です。だけど、本当の『楽』とは、苦労したり、がまんしたりすることによって得られる喜びのことではないのでしょうか。

童謡詩人の金子みすゞさんが、こんな詩を書いています。

星とたんぽぽ



青いお空の底ふかく、
海の小石のそのように、
夜がくるまで沈んでる、
昼のお星は眼にみえぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。

散ってすがれたたんぽぽの、
瓦のすきに、だァまって、
春のくるまでかくれてる、
つよいその根は眼に見えぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。



夜の星は、突然現れてくるものではありません。昼の星は、太陽の光にかくれながらも、じっとその時を待ってがまんしているようにも思えます。待って待って、がまんしてがまんして、そして、あのきれいな星空を描いているように思えます。

たんぽぽだってそうです。寒い冬の間はじっとがまんして強い根をはることに力を注ぎ、どんな困難にも負けない力を蓄えているように思えます。

目に見える結果だけでなく、その結果に至るまでの努力や辛抱といったことを大切にしたいと思います。本当の『楽』を得るために、目に見えないところでも努力を惜しまない人間になりたいものです。

